

“アントレプレナー” という生き方

2023年1月16日(月)、経営学部主催・アントレプレナーシップ塾共催にて、公開特別講座が開講されました。コーディネーターに本学大学院経営学研究科修了で本学客員教授の渋谷順氏、スピーカーに中野智哉氏、松本直人氏をお迎えし、起業家という生き方についてお話しいただきました。起業を目指す方にはもちろん、そうでない方にとっても深い学びの場となったシンポジウムの一部を、SOUHATSU紙面でレポートします。

第1部

江島由裕経営学部長のオープニングで本講座が始まり、第1部はスピーカーお二人の起業家人生をプレゼン形式でご講演いただきました(司会:辻晶子経営学部長補佐)。現在までの紆余曲折や、アントレプレナーシップについて、学生にもイメージしやすい言葉で語っていただき、共感を呼びました。

「起業家という 楽しい人生」

一部抜粋・編集

SPEAKER:
中野 智哉氏
株式会社i-plug
代表取締役CEO



親 の教えは「知的好奇心・愛嬌を持って」。それを拡大解釈してしまった私は、ワクワクすること以外やらず、ニコニコしていれば最後はなんとかなると思う、異常な楽観主義者でした。人生で様々な「しじり」や「変化」を経験しています。ブラック企業への入社とニート生活、転職先でのトップセールスと我流の限界、そして仲間と起業したi-plugでの資金ショートの危機。ですが、失敗や環境の変化はチャンスでもありました。おかげで現在会社は大きく成長し、従業員約180名、東証グロース市場に上場しています。

ハーバードビジネスレビューによると、アントレプレナーシップとは「コントロール可能な資源を超越して機会を追求すること」だそう。例えば今財布に入っているお金がコントロール可能な金額だとしたら、誰かから借りることが、「超越する」ということ。他人にお金を借りてでもチャンスがあれば挑戦する。これって起業しなくても持てるマインドなんですよ。一人ひとりが考えて動くことで、日本はもっと良くなるんじゃないかな。ぜひ、しじりも含めた『変化』を、チャンスに変える一歩を踏み出してほしいです。

新

卒入社したフューチャーベンチャーキャピタルで、2016年代表取締役社長に就任しました。社長就任後は数々の困難にぶつかりましたが、社員の満足度が高い良い組織に成長できたと思います。しかし株主総会で経営陣入替が提案されて社長退任、いわば会社をクビになってしまいました。現在は、新しい会社を立ち上げ代表を務めると共に、顧問や社外取締役として20社以上の企業経営に携わっています。

社長をクビになったのにいろんな方に声をかけていただけるのは自分自身に「希少性」がある、つまり人と違う生き方をしているからだと思います。人と違うことをするのは不安でし、恥ずかしいと感じるかもしれない。でもこれからの時代、人と同じであることの方がリスクです。私は「自身の価値=希少性×貢献度」だと考え、希少性を高めることを意識してきました。人と違うことをするには、自分の頭で考えることが重要です。おかしいと思うことをおかしいと言う。そうすることで、共感してくれる仲間が集まったり、課題解決につながる大きな力が生まれたりすると思います。私自身まだ挑戦の途中ですが、希少性を生かして社会に貢献していきたいです。

「人と違う 生き方をする」

一部抜粋・編集



SPEAKER:
松本 直人氏
株式会社ABAKAM
代表取締役社長

MEMBER PROFILE

[SPEAKER]



中野 智哉氏
株式会社i-plug 代表取締役CEO
中京大学経営学部経営学科卒業。10年間求人広告市場で法人営業を経験し、2012年4月に株式会社i-plugを設立。新卒ダイレクトリクルーティングサービス「OfferBox」を運営。2021年東証グロース市場に上場。

[SPEAKER]



松本 直人氏
株式会社ABAKAM 代表取締役社長
神戸大学経済学部卒業。フューチャーベンチャーキャピタル株式会社に入社し、2016年に上場金融会社として最年少で代表取締役社長に就任。約50本、総額240億円のファンドを設立する。2022年に社長を退任、株式会社ABAKAM設立。

第2部

第2部は起業家という人生の選択についてディスカッション。事前打ち合わせなしのライブ感溢れるやりとりは、関西出身起業家として普段から交流のあるお三方の関係性や、本音が垣間見える貴重な機会となりました。

(CROSS TALK

コーディネーター・渋谷氏の
質問にお二人がアンサー

コーディネーター
渋谷 順氏



渋谷

生き方を考えた時に、「時間の使い方」ってすごく大切ななと思っていて。限られた資源だからこそ、納得できないことに時間を使われるのはもったいないですよ。お二人の時間に対する感覚を聞きたいです。



中野

ワクワクすること以外やらない人間だったので、無駄なことに時間を使われることを最初から避けているかもしれませんが。高校時代、得意な数学は常に満点でしたが他教科は全く勉強しないで全滅、といった極端な成績でした。じゃあ「全力で遊びたいけど単位も取らなきゃ卒業できなくてヤバイ!」となった大学4年生のときはどうしたかという、睡眠時間を削りました(笑)。資源を増やすというアプローチですね。……参考にならないか。



松本

私もできるだけ嫌なことはやらないタイプといいますが、放っておくとだらける性格なので、時間管理や計画立てることはとても苦手です。でも苦手だからこそ、あえて自分で期限を決めるように意識していますね。現在も「45歳までにこうする」という目標を立てています。



渋谷

先のスピーチに、仲間と物事を進めていくお話がありました。起業家として我を通す部分と、周囲に納得してもらうというか、利他的な部分のバランスって難しいと思います。日頃気にしていることはありますか。



中野

楽しいところに人が集まると思っていて、そのためには自分が楽しくないといけない。僕にとっての楽しいことは、誰かがワクワクすることです。だから、誰かをワクワクさせて僕も楽しくて、さらにそこに人が集まってくるような循環ができれば一番です。ただ僕も聖人じゃないので常にそうできるわけじゃない。自身に緩みがないか気付けるよう、意識しています。



松本

FVCでの社長時代は、自分で考え「こうすべきだ」と信じることを周囲に言い切りました。最初は社員の誰もついてきてくれませんでした。でもそれって決して悪いことじゃないんです。彼らが彼ら自身の頭で考えているということ。そして「社長の言うことも一理あるな」と思ってもらえたら、そこからは行動するのみです。そうして結果が出るようになったことで、みんなに納得してもらえたと思います。

最後に

最後は参加者からの質問タイムに。「起業の際のリスクヘッジは」「信頼できるパートナーをどう見つけるのか」などの起業を見据えた質問には、体験談を交えてご回答いただきました。「日本中のチャレンジしている人たちとご一緒に、登壇者の私たちももっと成長したいと思っています。本日お越しの皆さんともご一緒できる機会があると思いますので、またお会いしましょう」という渋谷氏の言葉で本講座は締めくくられました。

? ENTREPRENEURSHIP-Juku ?

アントレプレナーシップ(ENT)塾とは?

起業、ベンチャー、起業家などに関心がある本学生を対象にした、正課外の塾です。塾長はアントレプレナーシップ研究の第一人者である経営学部の江島由裕先生、塾長補佐は同学部の水野未宙也先生。多くの起業家や経営者も講師やメンターとして参画しています。単なる起業ノウハウを学ぶ塾ではなく、事業創造プロセスの理解と実践に関わる一連の学びに深く関わることを通して参加者の成長を目指しています。

[COORDINATOR]

渋谷 順氏
大阪経済大学客員教授
株式会社スマートバリュー 取締役兼
代表執行役社長



1985年に父親が経営する町工場、株式会社堺電機製作所へ入社。三代目経営者として、町工場から情報通信サービス事業へと事業領域の転換を図り、2018年には東証一部への上場を果たす。大阪経済大学大学院経営学研究科修了。